

平成17年4月28日

各 位

会社名 株式会社 梅の花
代表者名 代表取締役社長 梅野重俊
(コード番号 7604 東証第二部)
問合せ先 専務取締役 本多裕二
T E L 0942-38-3440

平成17年9月中間期及び通期業績予想の修正について

最近の業績動向等を踏まえ、平成16年11月26日に発表いたしました平成17年9月期(平成16年10月1日～平成17年9月30日)中間期及び通期の業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 業績予想

(1) 中間連結予想 (平成16年10月1日～平成17年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回予想 (A) (平成16年11月26日発表)	10,430	232	0
今回予想 (B)	9,830	42	234
増減 (B-A)	600	274	234
増減率	5.8%	-	-
前中間期実績 (平成16年9月中間期)	10,310	434	151

注) 当社グループは平成16年9月1日付けで分社いたしましたので、前中間期実績につきましては、平成16年9月中間期の単独数値を記載しております。

(2) 中間個別予想 (平成16年10月1日～平成17年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回予想 (A) (平成16年11月26日発表)	3,559	193	100
今回予想 (B)	3,286	140	68
増減 (B-A)	272	53	31
増減率	7.6%	27.5%	31.6%
前中間期実績 (平成16年9月中間期)	10,310	434	151

注) 当社グループは平成16年9月1日付けで分社いたしましたので、前中間期実績につきましては、平成16年9月中間期の単独数値を記載しております。

(3) 通期連結予想 (平成16年10月1日～平成17年9月30日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想 (A) (平成16年11月26日発表)	20,500	400	73
今回予想 (B)	19,518	37	253
増減 (B - A)	981	362	326
増減率	4.8 %	90.5 %	-
前期実績 (平成16年9月期)	19,576	425	106

参考：1株当たり予想当期純利益(通期) 9,699円48銭

(4) 通期個別予想 (平成16年10月1日～平成17年9月30日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想 (A) (平成16年11月26日発表)	6,822	303	152
今回予想 (B)	6,532	230	106
増減 (B - A)	290	72	45
増減率	4.3 %	24.1 %	30.0 %
前期実績 (平成16年9月期)	18,761	517	202

注) 当社グループは平成16年9月1日付けで分社いたしましたので、前期実績につきましては、平成16年9月期の個別数値を記載しております。なお、11ヶ月は単独、1ヶ月は個別数値の合計となっております。

参考：1株当たり予想当期純利益(通期) 4,086円37銭

2. 修正理由

(1) 中間連結業績修正理由

売上高につきましては、既存店は、計画を前年同期比4.8%減と予想しておりましたが、8.9%減で推移したことで計画比439百万円減、これは主に「東日本梅の花」の店舗が厳しい状況にあったことによります。新規店舗は、5店舗を未開拓の地方都市に出店したことで、知名度不足から来客数が見込みを下回り計画比155百万円減、また、米国レストラン計画比5百万円減により前回予想比600百万円(5.8%)減となる見込みであります。

経常利益につきましては、主に売上高の減少に伴う売上総利益の減少、新規出店について地方都市へ出店したことにより広告費などのコストが増加、店舗リニューアルによるコストが増加、また米国レストランの出店経費が増加したことなどにより274百万円減となる見込みであります。

従いまして、中間連結業績の見通しは売上高9,830百万円、経常利益 42百万円、中間純利益 234百万円を予想しております。

(2) 中間個別業績修正理由

売上高につきましては、連結子会社の店舗売上高が低下したことにより、食材の供給及びロイヤリティ収入が減少し、前回予想比272百万円(7.6%)減となる見込みであります。

経常利益につきましては、売上高の減少に伴い売上総利益が減少し、購買取引における仕入価格の直しを行うなどコスト削減に注力しましたが、前回予想比53百万円(27.5%)減となる見込みであります。

従いまして、中間個別業績の見通しは、売上高3,286百万円、経常利益140百万円、中間純利益68百万円を予想しております。

(3) 通期連結業績修正理由

売上高につきましては、今後も引き続き厳しい状況で推移するものと考えられます。下半期の既存店売上高の前年比を6.9%減に見直し、新規店舗及び米国レストランにつきましても現在の進捗を踏まえ、前回予想比981百万円(4.8%)減を予測しております。なお、上半期におきまして厳しい状況にあった「東日本梅の花」では、3月より販売促進活動(通い帖)を強化し、徐々に効果が現れてきております。経常利益につきましては、売上高の低下に伴う売上総利益の減少を見込んでおります。下半期につきましては、新規出店に伴う出店費用が発生しないことから、前回予想比362百万円(90.5%)減を予測しております。

従いまして、通期連結業績の見通しは、売上高19,518百万円、経常利益37百万円、当期純利益 253百万円を予測しております。

(4) 通期個別業績修正理由

売上高につきましては、連結子会社の店舗売上高の低下に伴い、食材の供給及びロイヤリティ収入の減少を見込み、前回予想比290百万円(4.3%)減を予測しております。

経常利益につきましては、売上高の低下に伴う売上総利益の減少を見込んでおります。引き続きコスト削減に注力いたしますが、売上総利益の減少を補うコスト削減には至らないと見込み、前回予想比72百万円(24.1%)減を予測しております。

従いまして、通期個別業績の見通しは、売上高6,532百万円、経常利益230百万円、当期純利益106百万円を予測しております。

以 上